特集 ❻

進化ではなく 創作意欲のある三津浜で

三津浜クリエーターズ　代表　**酒井　正雪**　（松山市）

年末餅つきイベント

ジャンマーク氏講演会

◆きっかけになった まちづくり協議会まちおこし部会

商店街の舗装記念で行った仮装で昭和歌謡を踊ろうとした「三津浜珍踊り」は、ちょうどお盆時期と重なって、盆踊りと融合し思わぬ盛り上がりを見せました。「通年行事にしては？」と発案者に言ったところ、時間的に余裕が無く、準備作業ができないとあっさりと言われました。みんなの顔を見ていると、頭ではできないと考えているけれど内心ではやりたいなぁと見て取れました。しかし、本当に一番やりたかったのは自分だったと思います。

そんな混沌とした中でまちづくり協議会のまちおこし部会がありました。部会長にイベントの実施の有無を問われたとき、「みんなと話し合いましたが、私の責任で第２回三津浜珍踊りを実施したいと思います。いかがですか？」と尋ねました。そのとき賛同してくれたメンバーが今の三津浜クリエーターズです。

◆動き出した三津浜クリエーターズ

三津浜クリエーターズは、三津浜商店街に店を構える店主や三津浜育ちの若者、また最近三津浜に移り住んで来た若者を中心に活動しています。その活動のベースはイベント事業と街並み保存活動です。

イベント事業の方は、私たちは個々の生活を支えるのがやっとのメンバーが多いので、ほとんどを助成金と協賛で賄っています。私たちが活動している三津浜地域の先輩たちはいろいろな繋がりを持っていて、それらすべてを三津の為だったらと自由に使えるネットワークを形成してくれています。こういうチョットした事がほかの地域と違う三津浜の行動力ではないでしょうか。

もう一つの街並み保存事業ですが、私たちの三津浜地区は古くからの港町でありながら、第２次世界大戦中に戦火を免れた関係で江戸時代から明治、大正、昭和と古い建物が残っています。私たちはそこに着目し、建物の価値や機能を調査し、発信し、次世代につなげる景観価値の提案をしていこうとしています。一昨年に「三津の古建築ものがたり」の著者池田由美さんを招いて、三津浜公民館で三津に眠っている古建築の素晴らしさを語ってもらったところ（午前の部、午後の部で１６０名程度来場）、松山市が興味

池田由美氏講演会

シャッターフェスティバル

代表 酒井正雪（左）と
副代表 田中章友（右）

を持ち、後に活動し始める三津浜地区にぎわい実行委員会の足掛かりになりました。

◆2年目で浮き彫りになった課題と限界

良いスタートが切れた1年目だったのですが、ここにきて若いメンバーが多く、それぞれのアイデンティティーがぶつかり合ったり、せっかく予算をとって来ても原資不足でその事業を撤退したりして、いまひとつ盛り上がりに欠けた年になり、それでも私たちの活動は忙しく、いろんなところに振り回された一年になりました。どうしても行政と地域との協議を重ねる中で私たちの方向性を見失うようになり、自由な発想が身勝手な行動と評価され、一定の規律をもとめられるようになり始めたころからアーティストが出てこなくなりました。

彼らの発想と計画を実行に移す為の地域と行政の協議はこれからも誠実に取り組んでいきたいと思います。身勝手な行動にならない、三津浜地区の皆様に支えられる活動をしていきたいです。

◆もういちどふりだしに戻るかイノベーションできるか

私たちのいる三津浜地区は今は寂れた街になっていますが、以前は小学校も松山市内では有名なマンモス校であったし、商店街も数多くの店が建ち並んでいて、漁師さんたちもいっぱい魚を捕って来て、魚屋さんや水産加工会社などが溢れる活気ある街でした。

もう一度あの時のように・・・とはならないと思います。矛先を変える必要がきっとあるのでしょう。これから、私たちの活動はやっぱり当初のイベント事業と街並み保存を柱にして活動していきたいと思います。メンバーはイベント事業は一過性のにぎわいにしか過ぎないことを知っています。しかし、ボディーブローは打てます。街並み保存の方は目に見えない地道な活動で一日では変化はないのです。でもやる意味は必ずあるのです。目標は古いものを新しい価値観で再利用していく、「ほんもの」はやっぱり「ほんもの」なのです。

これからも三津浜クリエーターズは「流行っているからやる」のではなく、「みんなでこういう動きをしたいッ！」という感覚を大事にして活動したいと思っています。

第３回三津浜珍踊り